



平成二十二年一月二十日
〒九三〇八〇四
高岡市問屋町四十
有限会社 沖商店発
TEL 〇七六六一五二五五
FAX 〇七六六一六一五〇〇
E-mail info@oki-shouten.com

明けましておめでとうございます。
本年も一年よろしく願います。

本通信は、私の身の周りに起きた出来事に対して、私が思ったこと感じたことを記し、これに対する皆様のご意見を、今後の私の成長の糧とさせて頂きたいと思ってお届けしています。
どうぞ、忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

一 「隠居」と「ロータリー精神」

今日、日本は長寿世界一になりました。しかし、つい百年前までは「人生五十年」とか「齢七十古来希なり」（＝古希の由来）とか言われていました。従って、代々受け継がねばならない技術の伝承や組織の維持・管理の移譲などは早期に着手され、長い時間を掛けて行われました。その一つの方法が「隠居」です。

殿様に男児ができる、その母親から取上げ、即、教育が始められます。そして甚だしきは生殖能力も無いうちに妻を娶らされ、二十歳にもなればもう讓位です。殿様はその頃には大体四十歳くらいになっています。そして、讓位後は表面立っての仕事からは一切退き、趣味やボランティアのようなことに精を出し、ひたすら命

を永らえるように生活します。国が平穩無事なら幸いですが、難しい事態に直面した時、息子が相談に来ます。今の親なら即刻教えるでしょうが、そう簡単には教えません。大事に至らないと思われる場合には、ヒントを与えるぐらいにしておきます。こうして後継者を育てながら静かに暮らし、必要な時だけ知恵をかし、自身は何時死んでもよいように生きるのが「隠居」なのです（何もしないではありません）。

私は、この隠居制度が会社経営にも有効な方法ではないかと思えます（勿論、長寿社会の現代日本では交代時の年齢は考慮しなければなりません）。これだと、一貫した理念の下で蓄積された知識の上に、さらに新しい工夫が加えられるので、理想的な企業存続が図られるからです。但し、以下に記すデメリットを乗り越え（クリア）なければなりません。

- ① 讓位者（上位者）の決断（英断）。
- ② 優秀な後継者を選出できる眼力。
- ③ 隠居者への適切な手当て。

この三条件が揃えばその会社（国）は永遠に続き栄えます。途中で滅びるのはこの三条件中、一条件以上が欠けるからです。

① 讓位者（上位者）が、その居心地の良さ故に、いつまでもその地位に居座る。居座れば居座るほど、たとえ後継者が良い資質を持った者でも、任を継いだ後、経験不足の未熟さ故に、些細な事であっさり崩壊してしまうのです。

② 後継者を選ぶのは非常に重要です。後継者選びの要素は色々有ると思いますが、私は「私心」「私欲」の多少程度を重要視します。（後継者選びは、最重要事項ですから後日改めて再検討したいと思えます）

③ 隠居者（讓位者）へは、心身、未だ健全な中に会社存続の為に身を引くこと、その後も知恵を拝借しなければならぬかも知れないことを考慮し、それなりの手当てが必要だと思います。私は、昔の日本の終身雇用型が良いと思います（しっかりと社内年金制度の確立が必要）

但、これには、讓位する者される者、共に卑しく貧しい考えでは駄目、高邁な人格者でなければならぬことは言うに及びません。「空いた港に船が着く」という諺があります。あなたがいつまでも居座っているから次の船が着かないのです。「自分でなければならぬ」という思いは傲慢だとは思いませんか、あなた「ロータリー精神」について私は次のように聞きました。

業を起こして成功をおさめ、業績も安定した大企業の創業者が、その企業の永続を図りいちはやく後継者を決め、有事の際以外、自分は実務から一切、手を引く。すると、頭脳明晰・身体健康（だから大成功した）な自分を持て余す。そんな立場の人たちが寄り集り、意気投合して「仕事や利害に関係なく、なにか世の中の役立つ事（ボランティア）をやらう」となったのが本来の「ロータリー精神」で「ロータリー」と言う名の由来も「お互いの社会的立場を全く無くして、平等な立場で（円卓の騎士）との考え」から名づけられたのだと聞いております。とな

ると「隠居」と「ロータリー精神」は一脈通じていませんか。それなのに、「〇〇ロータリークラブ」の会員だと威張ってみたり、商売の手段に利用したりして「ロータリー精神」を汚している人の何と多いことでしょうか。

二 ホームページを開設しました。

www.oki-shouten.com

見てみてください。そして意見ください。この「にこにこ通信」もゆくゆくはホームページに載せようと思っております。

「富山方言番付」

先号で「けなるい」「けなるがらせる」について記しましたが、富山方言ではありませんでした。友人に指摘され広辞苑を繰りました。

「け(異)・なり」【形容詞】稀なり。珍なり。羨ましが、の【形容動詞】化、「け(異)・なり」羨ましい。「け(異)・なり・がる」羨ましが。と載っていました。インターネットで「けなるい」と検索しても出てきません。「けなるい」「けなるがる」「けなるがらせる」は標準語でした。（と言っても今日ではほとんど死語）
東の前頭「しころつく」

意味 手を焼く。閉口するほど苦勞する。

「あの暴れもん、おさいとつきや、しころつかんなんぞ」 、「あの暴れ者を抑える時は、非常な苦勞を覚悟しなければなりませんよ。」

「あの酔っぱらい、うちとどきんがに、しころついたぞ」 、「あの酔っぱらい、自宅へ届けるのに、手を焼きましたよ」

西の前頭「たんたんふる」 、「次号へ」